

第9回スライド大会

開催日：2001年1月13日（土）

場 所：千葉県立中央博物館講堂

参加者数：51名

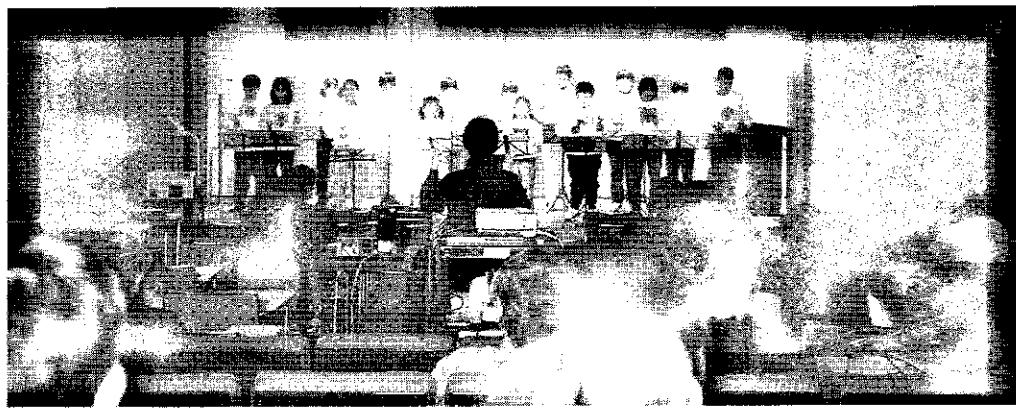
今回は「マツ林のきのこ」がテーマでした。仙台の安藤さんは胞子と子実体の両方のスライドを55枚用意されました。後藤さんは海岸の松林や雑木林の松に生えるきのこを中心に16枚紹介されました。須賀良行さんは2000年に撮影したきのこを33枚。須賀はる子さんは「海上の森のきのこ」48枚。吉田幸二さんはパソコンを使ったスライドショーを上映しました。近田隆さんはphotoshopを使用して画像の編集方法を実際に見せてくれました。浅井さんもパソコンを使用した美しい画像を見せてくれました。また休憩時間には近山節子さんが指導されている「すずらん」によるハンドベルの演奏会がありました。曲目は「おぼろ月夜」「フラワー」「めぐる季節」の3曲。心が洗われるような素晴らしい演奏でした。隣の研修室にはきのこグッズの展示を行いました。こちらも盛況でした。

総会

開催日：2001年7月15日（日）

場 所：船橋県民の森

事務局より2001年度の開催行事、幹事、会計の各報告・提案を行い、参加者の賛成を得て全ての案が承認されました。



「すずらん」によるハンドベル演奏

第30回観察会

開催日：2001年7月15日（日） 場所：船橋県民の森

講師：服部 力

参加者数：23名 採集種数：32種（不明種を除く）

乾燥した地面にきのこは見あたらず、観察会は期待できないと思いました。しかし、森林総研の服部さんが参加して下さり、興味深い硬質菌の勉強会となりました。服部さんの解説を聞いた直後は「なるほど」と分かった気になるのですが・・・。また、不明なテングタケ属が採取され、京都の小田さんに送りました。

服部さんの解説をメモしましたので簡単に記します。

- (1) アミスギタケはDNAからいうとカワキタケに近い。
- (2) スジウチワタケ（スジウチワタケモドキ）には柄がある。変異が多い。南方系で南関東が北限。
- (3) ツヤウチワタケはシベリアまで分布。毛がない。菅孔は小さい。薄い。

ツヤウチワタケモドキは日本のみ分布。菅孔が大きい。厚い。

ウチワタケは毛がある。環紋がある。

- (4) センベイタケは熱帯性で茨城くらいが北限。
- (5) ホウネンタケは藤色が特徴。
- (6) *Polyporus hemicapnooides* は柄がある。柄は黒い。アシグロタケは南関東には分布しない。
- (7) カイガラタケは肉が白い。毛が生える。チリメンタケには毛がない。
- (8) サワフタギタケはサワフタギに出るものとアカマツに出るものがあるが区別は難しい。

若い時はボロボロ崩れるがだんだん石のように堅くなる。

(9) エビウラタケは上が白色、下がエビ色（濃い茶色）

(10) ヒメシロカイメンタケは菅孔が大きい。シックイタケは似ているが菅孔が小さい。

アナタケ、アミスギタケ、アラゲキクラゲ、エビウラタケ、オオホウライタケ、カイガラタケ、カワラタケ、コテングタケモドキ、コフキサルノコシカケ、サワフタギタケ、スジウチワタケ、センベイタケ、ツエタケ、ツブカラカサタケ、ツヤウチワタケ、ツルタケ、テングタケダマシ、トキイロヒラタケ、ドクツルタケ、ニクウスバタケ、ヒメコナカブリツルタケ、ヒメシロカイメンタケ、フクロツルタケ、ベッコウタケ、ホウネンタケ、マツオウジ、マンネンタケ, *Polyporus hemicapnooides*



服部先生、びしひしと硬菌類を同定

第31回観察会

開催日：2001年9月29日(土)

場所：泉山自然公園

講師：滋賀大学名誉教授 本郷次雄先生

参加者数：38名 採集種数：55種(不明種を除く)

快晴のもと、恒例の本郷先生をお迎えしての観察会が開催されました。ちょうどきのこの端境期に当たってしまい、例年よりもきのこは少なかったようです。それでも熱心な参加者の皆さん探索により、同定会場にはたくさんのきのこが並びました。本郷先生は今年も益々お元気で次々同定してゆかれます。「さすが」と感心するばかりです。同定の後、講堂に移って本郷先生の講演「攬乱地のきのこ」とスライド上映がありました。講演内容については先生の講義録(P.6~7)をご参照下さい。本郷先生は各地のきのこ観察会で講演されているそうですが、今年は同じテーマにされたとのことです。

主な採取種

アカアザタケ, イタチタケ, イヌセンボンタケ,
イロガワリフウセンタケ, オガサワラハリヒラタケ,
オニタケ, オニフスペ, カイガラタケ, カニノツメ,
カワラタケ, ガンタケ, キアシグロタケ, キショウゲンジ, クショウイグチ, コテングタケモドキ,
コフキサルノコシカケ, サクラタケ, シロオニタケ, シロトマヤタケ, スギエダタケ, スッポンタケ, スミゾメヤマイグチ, タマゴタケ, チャカイガラタケ, ツエタケ, ツチグリ, ツチナメコ,
ツヤウチワタケ, テングタケ, ドウシンタケ, ナカグロモリノカサ, ナラタケモドキ, ニガクリタケ, ネンドタケ, ノウタケ, ハナビラニカワタケ,
ヒイロタケ, フクロツルタケ, ヘビキノコモドキ,
ミヤマオチバタケ

談話会講座

開催日：2001年10月20日(土)

場所：千葉県立中央博物館研修室

講師：北海道大学総合博物館 小林孝人氏

テーマ：アセタケ

参加者数：24名

第32回観察会

開催日：2001年10月21日(日)

場所：房総風土記の丘

講師：小林孝人氏

参加者数：36名

採集種数：70種

内容については次ページを参照



あっ！と驚く アセタケの観察会

松本妙子（東邦大学）

10月21日に風土記の丘で行われた観察会は、雨が降る中で行われた。いつもなら見付け次第キノコを採集してしまう私だが、今回はアセタケ属の専門家である小林孝人先生を講師に迎えての観察会だったので、アセタケ属を中心に探索した。しかし、アセタケ属が数個で、他也大して採集できず残念な結果だった。一方、カゴ一杯採集されている方もおられ、また約50人ほどの参加者のもと、多種多様なキノコが採集された。

採集は午前に行われ、お昼をはさみ午後は参加者が採集してきたキノコに名前を付けていく作業になる。が、アセタケ属の多くは、目立った外部形態をもたないこともあり、名前が付けづらいグループの一つであろう。

私事になるが、卒業研究で調査しているフィールドにもアセタケ属が多く出現している。アセタケ属は、外見が似ていても同じ種でないことが

多々あり、顕微鏡での胞子やシスチジアの観察が必要不可欠となる。顕微鏡観察の際には倍率を1000倍で見ているが、それでも、ある種の胞子やシスチジアの外部形態の特徴を見いだすのに四苦八苦している。顕微鏡で名前を付けようとしてもかなり大変な作業であると思う。

今回はアセタケ属に名前を付けるだけでなく、参加者が胞子やシスチジアを顕微鏡で観察し、小林孝人先生が解釈をいれて名前を付けていかれた。その際私は先生が指定されたアセタケ属のプレパラート作りをしていたが、そこでビックリしてしまった。先生は、外見でおおよその見当をつけ顕微鏡で確認し、倍率が400倍で、さっさかさっさかと名前を付けておられたのだ。見るポイントが違うらしい。今度お会いするときには、どこに注目し、アセタケ属の何に惹かれたのか、ゆっくりお話を伺いたいものである。

今回採集されたアセタケ属の約半数に、名前が付けられた。名前が付いたアセタケ属は以下の通りである。

シロトマヤタケ、コバヤシアセタケ、オオキヌハダトマヤタケ、シラゲアセタケ、シロニセトマヤタケ、コブアセタケ、ミナカタトマヤタケの7種である。

以下の書籍・会報・別刷を御寄贈頂きました（北から南へ配列）

上川きのこの会会報第19号（2002年1月26日発行）

北海道キノコの会会報No.44号（2001年9月29日発行）

冬虫夏草研究会通信Vol.3(2)No.8(2000Dec.20発行)、Vol.4(1)No.9(2001年7月30日発行)

いわきのこ同好会会報6号（2001年3月31日発行）、7号（2002年3月31日発行）

埼玉きのこ研究会会誌「いっぽん」No.15（2001年3月25日発行）、No.16（2002年3月25日発行）

神奈川キノコの会会報23号（2001年5月27日発行）、24号（2002年5月26日）

常盤俊之・奥田徹「日本産菌寄生性子囊菌Hymenomycetes属類3種について」、日菌報42:199-209

関西菌類談話会会報No.23（増刊号2000年12月発行）、No.24（2001年12月発行）、名簿（2002年8月1日現在）

静岡木の子の会会報第5号（2001年6月発行）

大分きのこの会会報「大分のきのこ・方言」P.36（全霧足20周年記念号）

大分きのこの会会報「大分のきのこ」No.32（2000年4月21日発行）、No.33（2001年5月1日発行）

遠藤正喜「大分県産気になるきのこ」P.133

遠藤正喜・波多野英治「大分市中部地域のきのこ相」大分生物談話会会誌6号：23-32

熊本きのこ会年報平成12年度号（平成13年6月発行）

下田通生・塙雅孝「2001.九州でみられるきのこ」P.288.（株）環境調査研究所・熊本（2001年6月18日発行 ISBN4-9988692-2-6）

第10回スライド大会

開催日：2002年1月12日（土）

場 所：千葉県立中央博物館講堂

参加者数：51名

今回は「雑木林のきのこ」がテーマでした。熱心な活動を続けている湯峯さんは雑木林のきのこと最近新称となったきのこを11枚。後藤さんは25枚紹介されました。その後、吹春さんの指導を受けている学生さんの松本妙子さんの「イヌシデ・コナラ林の菌類群集」の卒論紹介がありました。お昼を挟んで恒例のハンドベルサークル「すずらん」による演奏があり、心温まるひと時を過ごしました。毎年このような機会を与えてくれる近田節子さんに感謝です。午後の部は仙台の安藤さんが「2001年きのこ旅」と題して52枚。安藤さんの胞子の顕微鏡写真は本当に素晴らしいです。佐野さんも久しぶりに31枚を紹介してくれました。丸山さんは「ヒトヨタケ属のきのこ」17枚。とてもためになりました。須賀良行さんのスライド上映中に映写機が故障てしまい、やむなくスライド大会は終了しました。須賀さん、来年またお願いします。今年も隣の研修室でのこグッズの展示を行いました。